

坪井川の川まちづくりにおける地域社会の協働過程に関する研究

Study on collaborative processes of region society in River Community Planning of Tsuboi River

熊本大学工学部社会環境工学科

前田 将伍

1. はじめに

本研究の目的は、坪井川の川まちづくりにおける地域社会の協働に必要な要件を考察することである。そのために、2000年から2010年までの、地域社会における川まちづくりに着目し、その変遷を整理する。次に整理した活動についてグループ・ダイナミクス理論（以下 G・D 理論と略）を援用し、可視化する。その上で、地域社会の活動の詳細構造を、活動の変遷（集合流）に沿って分析する。

2. 地域社会の活動の変遷

地域社会の変遷を把握する為に、研究対象地の概要について述べた。その後、本研究における地域社会の定義を以下のように示した。

- ・市民：地域住民や、まちづくり団体等の組織
- ・アソシエーション：NPO や、民間企業等の共通の目的や関心を持つ人々が自発的につくる集団や組織
- ・行政：国の機関や、県、市町村等、地方公共団体の組織

以上を踏まえた上で、活動主体を 3 つに分類し、過去の新聞記事を基に、地域社会の活動を記した。次に、川まちづくり活動にみる地域社会の特徴について考察した。

3. 地域社会の活動の可視化

地域社会の構造を把握するために、まず、G・D 理論の概要を述べた。次に 2 章で作成した活動記録を、「主体」「集合体」「目的」の項（G・D 理論を基に定義した、活動の基礎構造に現れる各項）に整理する為に、データベースを作成した。そのデータベースを基に、G・D 理論を援用し、地域社会の活動の可視化を行った。

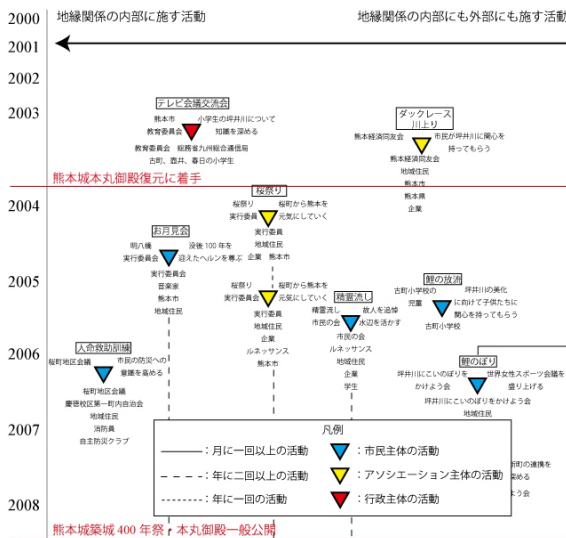


図 1 地域社会の活動の可視化の一部

図 1 は縦軸を時系列、横軸を目的別（左に向かうほど地縁関係の内部に施す活動、右に向かうほど地縁関係の外部に施す活動）にとり、活動を並べたものである。それを基に、地域社会の集合流の分析を行った。

4. 地域社会の協働に関する分析

本章では、地域社会の活動の集合流に沿って、地域社会の活動の詳細な項目（活動の基礎構造に「道具」「分業」「ルール」を加えたもの）を分析した。

本研究の対象地の地域社会はアソシエーション主体の活動が様々な目的に対し、幅広く存在する。そこで、アソシエーション主体の活動の集合流に着目することで、地域社会の協働を読み解くことができると考えた。

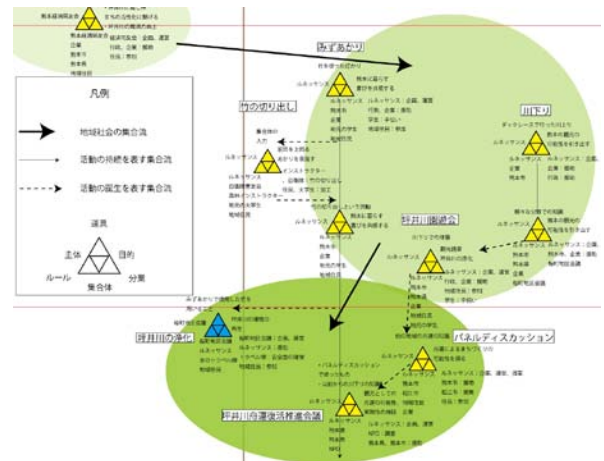


図 2 活動の集合流と詳細構造

図 2 は、アソシエーション主体の活動における集合流の上に重ねた活動の詳細構造である。活動の集合流の変化点における詳細構造を分析することで、坪井川の川まちづくりの協働過程の流れを明らかにした。また、協働過程の流れから、協働過程を形成するための条件、地域社会の協働に必要な要件を考察した。

5. おわりに

本研究では、G・D理論を援用し、地域社会の活動の可視化を行った。さらに、活動の集合流を分析し、協働に必要な要件を考察した。協働過程を形成するには、ある程度の期間が重要で、その間に地域社会内で「新たな目的が生まれ、活動団体動き出し、集合体が形成される」さらに、「活動の道具が生まれ、分業制度が確定し、活動内のルールが形成される」という経過を追って活動を構築することが地域社会の協働に必要な要件であると考察した。